

..... CONTENTS

- 第7回『トップの集い』（講演会・懇親会）
- 『さいたまトップセミナー』（講演会・事例発表）
- ベンチマーク視察研修会
- 埼玉県経営品質審査報告
- Dr. テラのはじめての経営品質 —第3回—
- SQA 通信

第7回『トップの集い』講演会及び懇親会 開催 — 大宮 —

“MOTTAINAI”と”おもてなし“日本の心を仕事に生かす
—社員の仕事力と組織力がスパイラルUPする「独自の経営システム—

平成 25 年 11 月 26 日(火) 16:15 ~ 19:00、大宮ソニックシティ8階 804 会議室にて、埼玉経営品質協議会の会員企業トップにて開催しました。



▲石坂産業株式会社代表取締役、石坂典子氏。



▲小山福松代表幹事。

小山福松代表幹事の主催者挨拶の後に、石坂産業株式会社代表取締役 石坂典子氏による講演及び質疑応答後に、14 階の「天空のジパング」に移動して懇親会を開催して交流・親睦を深めました。

さいたまトップセミナー — 大宮 —

平成 26 年 2 月 5 日(水) 14:00 ~ 16:40、大宮ソニックシティ 6 階 602 会議室に於いて、さいたまトップセミナーをお二人の講師をお招きし、開催しました。

『創造への挑戦』 ～チームを目標に導くリーダーシップとは～

講師：株式会社インタラクティブラボラトリー

代表取締役会長 大槻 正 氏

『家庭用自律ロボット＝AIBO』という全く新しい商品を開発し、世を驚かせた元ソニーのエンターテインメント開発室長の講師から「ビジネスに必要な資質」「AIBO 開発の経緯」「AIBO ビジネス化」「リーダーシップ」「創造性」「チームワー

ク」をテーマにアイデアを生み出す職場環境づくりを学びました。

『企業力を高める職場環境とは』 ～ITを活用した合理化術～

講師：株式会社システムインテグレータ

管理部マネージャー 門間 克明 氏

地元さいたま市の「東証マザーズ」上場（講演当時）の IT 企業で「埼玉県多様な働き方実践企業」ゴールド認定企業の講師から、男女問わず人材を活用する「ダイバーシティ」を取り入れて、育児期の社員も実力を発揮できる職場環境づくりを学びました。

平成25年度 ベンチマーク視察研修会・会員交流会 を開催 「経産省おもてなし経営企業」の石坂産業に学ぶ

平成26年3月18日(火)、入間郡三芳町にある石坂産業株式会社様に伺い、ベンチマーク視察研修会を開催しました。当日は会員企業様より11名が集まり、石坂産業様から国際規格6統合による独自のマネジメントシステム構築や環境への取組、ES向上に向けた取組などの説明を頂き、多くの気づきを得るとともに、最新鋭廃棄物処理プラントや環境学習施設等を見学しました。



■ 会社概要

- ・1971年設立、資本金7,000万円
- ・従業員 約100名
- ・主な事業は建設廃棄物処理業
- ・経産省選定 平成24年度おもてなし経営企業

■ 経営理念と企業文化

「謙虚な心、前向きな姿勢、そして努力と奉仕」を経営理念として掲げ、約半世紀の間、環境問題などの時代の変化に対応し産業廃棄物の「縮減事業」から「資源化事業」へと業態転換を図ってきた。

産業廃棄物処理業界で“モノづくり”の技術はトップクラスで、建設廃棄物を97%資源化する“分別分級”技術を強みとしている。

全プラントを環境配慮型の屋内施設に設置し、防音壁も設置して近隣に配慮するとともに、ショベルなどの重機は、排出ガス、排出熱の少ない電動式を導入するなど、社員の労働環境整備にも注力している。

■ 経営基盤の強化

第三者機関による評価で経営の見える化を推進、国際基準を導入することで経営基盤の強化を図ることを目的として国際規格の認証取得、運用に積極的に取り組んでいる。2003年に業界初のISO14001・9001・18001を同時取得して以降、情報セキュリティISO27001、エネルギーマネジメントシステムISO50001、事業継続マネジメントシステムISO22301を認証取得し、全国でも例のない6統合のマネジメントシステムの構築を行い、経営の効率向上と透



明化を図り、事業を飛躍的に発展させている。

■ 社会貢献・環境への取組

「地域と自然との共生」を目指し、生物多様性保全活動として森林パークつくるとともに、敷地に隣接した古民家を改築し昔の生活や仕事にまつわる道具を展示する施設をつくって、近隣の学校や企業、団体、一般からの見学を受け入れ、憩いの場や環境学習の場として提供している。

また環境活動に熱心で造詣が深い人に「環境ナビゲーター」として活躍する場を提供するなど、地域との深い関わりを大切に活動を行っている。

来場者アンケートに書かれた「お褒めの言葉」は社員のモチベーション向上に、「叱咤激励」は業務改善に繋がっている。

研修会後は会場を移動して会員交流会を開催しました。参加者各人の気づきや感想を語り合うとともに、会員相互の親睦を深めました。



埼玉県経営品質賞の審査に寄せて 副運営委員長、審査・コンサル部会長 高橋 清

～ 埼玉県経営品質賞が決まるまで～ 厳格な審査・フィードバックを通して 個々の組織のみならず、彩の国全体の経営品質の向上を目指す

2013年度の埼玉県経営品質賞知事賞は賛光精機株式会社。3回目の申請ですが、審査チームからの「審査結果報告書(フィードバックレポート)」を活かして改善や革新につなげ、自組織の成熟度を向上させてきた結果が結実したものとと言えます。

■ 審査員はどう決めるの？

審査員は、9月9日に日本生産性本部で経営品質協議会が主催する審査員選定会議で決まります。日本経営品質賞の審査員にエントリーして毎年実施される審査員研修を受講した候補者の中から各協議会の条件に合う人を指名していき、重複指名があった時には合議して決めるという仕組みです。当協議会では、当初の希望通りに審査リーダーと2名の審査員を指名(審査リーダーSさん、審査員Qさん、審査員Aさん3人の保有資格:経営学修士(MBA)・中小企業診断士・技術士(経営工学)・エグゼクティブコーチ・学術修士・消費生活アドバイザー・ISO9001審査員・応用情報技術者・ITストラテジスト)することができました。その後、11月6日に埼玉県経営品質賞の審査員研修を受講していただきました。審査員になるのも大変なことです。

■ 申請は

埼玉県経営品質賞の申請は、組織プロフィールに加えて審査項目(カテゴリ)1～8までの約40ページの記述が必要になります。自組織で記述チームを編成して取り組まれるケースが多いのですが、埼玉県経営品質協議会選定のシニアアドバイザーの支援を受ける場合もあります。

■ 審査の過程は

申請書は11月18日に締め切り、審査チームに回送されます。審査の視点を共有するために申請組織の「重要成功要因は何か」のすり合わせを12月4日に行いました。

その後、審査員が個別審査を行い、リーダーが統合してきます。申請書から読み取れない内容などは、現地審査の2週間前までに質問項目として審査事務局から申請組織へ送付します。そしていよいよ現地審査に向かいます。

1月23日24日の二日間現地へ赴き、翌25日に合議を重ねます。2月中旬に審査項目ごとの強みと改善領域、ポイント総括を精緻化した審査結果報告書が完成し、判定委員のリードジャッジに審査リーダーから報告されます。

3月4日に判定委員会が開かれ、審査リーダーからの審査報告を受けて9名の判定委員で協議をし、賞に相応しいかどうかを判定します。

3月17日には賞委員会が開かれ、判定委員長からの推薦を受けた受賞対象組織への受賞を決定します。受賞決定時には賞委員長から受賞組織のトップへ直接電話で決定が通知されます。審査事務局から審査リーダーや審査員、運営委員等の関係者に通知され、プレスリリースも行われます。

4月4日には審査報告会議(フィードバックミーティング)が受賞組織で行われ、審査チームが延100時間以上費やして完成させた審査報告書が手渡され、審査リーダーや審査員から詳細な解説が伝えられます。そしてそれは成熟度が一段上がるように提言が加えられます。このレポートが申請費用40万円の10倍以上の価値があるといわれる所以です。

■ 学びの場の提供

このようにして組織成熟度を高めた受賞組織は5月20日に開かれる表彰式・受賞組織報告会でその取り組み状況を披露します。これは他の組織の学びの対象となります。このことが経営品質賞のねらいとするところです。ベストプラクティスを学ぶことで個々の組織だけではなく、県内中小企業の経営品質の向上を目指しているのです。

是非、埼玉県経営品質賞へのチャレンジを企業の経営力向上にお使いください。

Dr. テラのはじめての経営品質

第3回 「アセスメント」の本質

第1回は「顧客本位」、第2回は「社員稼業」、今回は「アセスメント」の本質です。

経営品質を学んだことがある方は、「アセスメント」という言葉を聞いたことがあるでしょう。

直訳すると、「アセスメント＝評価」です。

しかし、経営品質関係の資料には、「アセスメント」の定義を明確にうたっているものはありません。でも、それを実行する「(セルフ)アセッサー」については、こう定義されています。

「セルフアセッサーとは、組織内で経営革新を進めるためにリーダーシップを発揮する人材である」だとすると、「アセスメント＝経営革新を進める際に必要なリーダーシップ」ということになります。

おそらく、この考え方は正しいでしょう。

でも、一般的に「アセスメント」という言葉の響きからは、ここまで読み取ることはできません。

「経営品質向上プログラム」は、もともと「日本経営品質賞」という、スゴイ会社を表彰する制度がもとになってできました。その際、スゴイ会社を見つけるためには、一定の審査基準が必要で、そのために「審査基準書」ができ、その後、社内でも活用しようということで、「審査」という言葉が「アセスメント」に変わりました。だから、もともとは「アセスメント＝評価」(審査)だったのです。

でも、客観的評価だけでは、組織は動きません。

なぜなら、結果を出すのは、一人ひとりの社員だからです。

それでは、経営品質を活用した「経営革新を進めるためのリーダーシップ」に求められるものは何か。

Dr. テラはこう考えます。

- ①経営品質のことやアセスメントのことを、自分が経営者の立場で納得する(社員稼業)
- ②よくわからないことは、わかっている人にしっかり質問し、自社の経営にどう活かせるかを明確にしてから取り組む(自分事)
- ③わかりやすく、おもしろく、一人ひとりが、やりたいと思えるような展開方法を企画し実施する
あなたの会社の経営革新や業務改善活動に「経営品質」はフィットしそうですか。

【寺沢俊哉氏の紹介】

・公益財団法人日本生産性本部
主席経営コンサルタント
・経営品質判定委員(埼玉県・徳島県)
・経営コンサルタントとして、約200社のコンサルティング、延べ1万人を超える研修を実施
・ホームページ「テラメディア」
<http://teras.jp/>にて経営品質に関連する情報提供をしています。



SQA 通信

～ 事務局からのお知らせ ～

当経営品質協議会の冊子「経営品質向上プログラム」、「賞申請ガイドブック」はご存知ですか？

毎年、会員のみなさまに両冊子をお届けしています。まず「経営品質向上プログラム」の特徴は、26年度実施予定の事業を一表にまとめていることです。また、当協議会のこれまで歩みや、経営品質向上プログラムについてもポイントを簡潔にまとめています。この冊子は5月20日の通常総会で配布させていただきました。総会に出席できなかった方には郵送させていただきますので、役員・従業員のみなさまでご覧くださいようお願い申し上げます。

次に「賞申請ガイドブック」の特徴は、埼玉県経営品質賞・埼玉県経営品質協議会推進賞に挑戦される方に向け、賞申請の流れや書類の書き方等をまとめていることです。また今年度は「日本経営品質賞アセスメント基準書」の大幅な改訂に伴い、申請ガイドブックの内容も従来より大きく変わる予定です。ガイドブックは6月に会員みなさまにお送りさせていただきます。26年度の経営品質賞・推進賞の申請を検討されている方はご熟読くださいますようお願い申し上げます。

【編集後記】

本21号よりレイアウト及びフォントを変更させていただきました。より読みやすくなったかと思います。また、今号では埼玉県経営品質賞の審査過程について分かりやすくご紹介させていただきました。経営品質賞は審査員からのフィードバックレポートを企業の改革に結び付けて行くことが特徴です。是非埼玉県経営品質賞にチャレンジしていただけたらと思います。

当会では、経営品質を多くの方々に知っていただくようオープンセミナーを、また会員企業の皆様にはより深掘りした研修会を開催しております。その様子については随時ご報告させていただきます。また、ホームページもアップしておりますのでご覧ください。